平成 20 年 10 月 31 日

各　位

会社名　国際石油開発帝石株式会社
代表者名　代表取締役社長　黒田　直樹
コード番号　1605　東証第 1 部
問い合わせ先　広報・IR ﾕﾆｯﾄｼﾞｪﾈﾗﾙﾏﾈｰｼﾞｬｰ　板野　和彦
電話番号　03-5572-0233

カザフスタン共和国北カスピ海沖合鉱区
カシャガン油田の開発を巡る協議の最終合意について

当社子会社のインペックス北カスピ海石油株式会社を通じて、世界有数の巨大油田であるカシャガン油田(注1)の開発事業を実施しているカザフスタン共和国北カスピ海沖合鉱区では、カシャガン油田の開発を巡る協議を踏まえ、カザフスタン当局とコントラクターが、本年 1 月の基本合意に基づき、詳細を協議しておりましたが、10 月 31 日に最終合意に達しましたのでお知らせいたします。

本最終合意に基づき、カザフスタン国営石油会社（KazMunayGas）に対し、同社を除くコントラクター全体で 8.48%を譲り渡し、同社の権益比率を他の筆頭権益保有コントラクターと同じ比率まで引き上げる結果、本鉱区のコントラクターの権益比率は、下記のとおりとなります。なお、インペックス北カスピ海石油㈱の権益比率は、8.33%から 7.56%になります。

記

ENI、ExxonMobil、KazMunayGas、Shell、Total の各社：16.81%
ConocoPhillips：8.40%
インペックス北カスピ海石油㈱：7.56%

なお、本最終合意に基づき、プロジェクトの開発操業体制が強化され、全てのコントラクターにより新操業会社（North Caspian Operating Company）が設立され、同社が現行オペレーター Agip KCO 社の役割を 2009 年 1 月に引き継ぐことといたしました。

これにより、カザフスタン当局とコントラクターのカシャガン油田の開発を巡る協議が全て終了いたします。当社といたしましては、他のコントラクターとともに、2012 年末を目途とするカシャガン油田生産開始(注2)に向け着実に開発作業を進めるとともに、その他の 4 つの既発見構造(注3)の評価作業に鋭意取り組んでまいります。

以上

（注1）　カシャガン油田の発見は、1968 年のアラスカのプルドーベイでの発見以降の世界における最も重要なものと位置づけられている。

（注2）　現在開発作業に取り組んでいるカシャガン油田の第一段階の開発（Experimental Program）では、原油生産量（プラトー生産量）は、日量 30 万バレル、続いて 45 万バレルに逐次増加する計画である。なお、将来のカシャガン油田の全体開発では、原油生産量（プラトー生産量）は、2010 年代末に向けて日量 150 万バレルとなる予定。

（注3）　南西カシャガン構造、アクトテ構造、カイラン構造、カラムカス構造は、相当量の炭化水素の胚胎が確認されている。